

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 第3回学校運営協議会概要

日時 令和7年2月12日(水) 15時～

場所 大阪府立岸和田高等学校 校長室

学校運営協議会委員

近畿大学教授	柴 浩司	様	
岸城中学校校長	松下 孝徳	様	
岸城幼稚園長	小野 舞	様	
同窓会会長	岸本 敬仁	様	
P T A会長	道端 秀明	様	(欠席)
後援会元会長	山路 明子	様	

学校側参加者

校長	植木 信博	
教頭	田坂 太一	
事務長	野村 文博	
首席	中野 健一	
首席	伊藤 功士	
教諭(進路指導部長)	長谷川武央	(欠席)

2 次第

(1) はじめに(司会:教頭)

① 校長挨拶

- ・お忙しい中、第3回学校運営協議会にご出席いただき感謝する。今年度も残りわずかとなった。明日が卒業式予行、週明け火曜日から学年末考査が始まり、28日には卒業式。
- ・本日は前回お伝えしたとおり、12月に実施した学校教育自己診断の結果などを踏まえて作成した令和6年度学校経営計画及び学校評価と令和7年度の学校経営計画について、ご承認いただきたい。よろしく願います。

② 各委員からの挨拶

(2) 協議

① 学校教育自己診断の結果と分析について

- ・学校経営計画の説明に先立ち、12月に実施した学校教育自己診断の結果について、資料にある令和4年度から3年間の推移を基に説明させていただく。校長着任3年めとなり、この資料は私自身の3年間の成果と課題を示すものとなる。教職員についてはご覧のとおり、大きな振れはなく、上がったりが下がりたりの項目が多い。例えば、「校長は自らの教育理念や学校経営についての考え方を明らかにしている」は98.2%→89.1%→96.3%。昨年度は2年めでもあり、既に校長の思いを理解してもらえていると考え、改めて伝えきれていなかったとの反省から、今年度は校長としての考えを繰り返しになるが話すようにした結果だと考える。

「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が83.9%→89.3%→92.6%と上がり続けていることについてはとても嬉しく、前向きに受け止めている。一方、「学校は、公開授業週間や研修などを通じて、指導方法の工夫・改善に努めている。」は98.2%→94.6%→92.6%と下がっている。この3年間、同じ形式の研修を継続したことによるマンネリ化がその要因だと考えており、来年度は新たな取組を検討しているところである。

- ・続いて生徒の結果について。校長として、「入りたい学校」、「入ってよかった学校」をめざし、まずは入学してきた生徒たちが本校に入学してよかったと思ってもらえることから取り組んでいる。その意味でも、「岸和田高校に入学して満足している」と「学校に行くのが楽しい」の2つの項目に注目している。それぞれ89.2%→91.2%→89.4%、87.2%→89.8%→89.5%と、最初の2年間数値は上昇したが、今年度は下がってしまった。3年連続上昇という項目が多くあった中で、「岸和田高校での授業に満足している」が87.7%→87.7%→86.0%と今年度下がったことが影響していると分析しており、授業の満足度を上げることが大きな課題だと考えている。このことは、保護者の「岸和田高校は教員の教科指導力の向上に積極的に取り組んでおり、子どもは授業が分かりやすいと言っている」が81.5%→82.1%→78.5%と下がったこととも合致している。また、この結果については、特に1年生の値が大きく下がったことがその要因となっている。
- ・保護者の結果については、上記の授業に関する項目に加えて、「岸和田高校は懇談や家庭連絡などを通じて、保護者と相談しやすい体制を作っている」が82.6%→86.7%→75.1%と今年度大きく下がった。この要因については検証が必要である。その他の項目については、大きな振れはなく、安定した推移を示している。
- ・保護者に対しては、昨年度まではマークシート用紙を配付・回収する形で実施したが、今年度からGoogle Formsを活用したオンラインでの回答に変更した。回収率が大きく下がったことから、来年度の実施方法については検討が必要である。なお、この3年間の推移を見ると、各項目に対する肯定的評価の傾向は変わるものではなく、有効な数値であると判断している。
- ・生徒・保護者の自由記述においては、先ほどの授業改善に関すること、課題の多さに関すること、補習・講習の充実に関すること、ロッカー設置に関すること、保護者との連携に関することなどが複数あがっていた。

【質疑応答】

(委員) (柴様)

授業に対する満足度について特に1年生が低かったということだが、上級生の1年次と比較しても低いのか。入学時の学力などとの影響は考えられないのか。

(学校) (校長)

今回の結果は、上級生の1年次と比較しても明らかに低い状況であった。現1年生は現2年生と比較して、入学時に実施した学力実態調査の結果は高かった。そのことを考えると、意識の高さによるものだと考えることはできるかもしれない。すなわち、期待して入学してきたのにと考えている可能性はある。

(委員) (柴様)

生徒たちが岸和田高校にもっと期待していたということを教員が理解することが大事なのではないか。

(学校) (校長)

もちろん、教員のさらなる意識改革が重要である。一方、特に今年度に入り、生徒たちの授業を受ける姿勢がよくないことが気になっている。このことについては、実際に生徒たちにも話し

をしたことがある。したがって、教員の授業改善とともに、生徒の授業態度の改善にも取り組んでいきたい。改めて授業規律（授業を受けるにあたっての決め事など）を定め、すべての教員が共通して実践することが必要ではないかと考えている。

（委員）（小野様）

各教科の課題の量について、先生方はよく考えられているのか、教科間での連携は取れているのか。我が子が進学した私立高校では、デジタル化された教科書や教材を使用しているものが多く、荷物が少なくなっているが、岸和田高校の状況はどうなのか。

（学校）（校長）

教科の課題については各教科で連携して時期や量を調整しながら出しているという状況にはないと感じる。本校では教員が各教科の準備室に常駐していることもあり、教科間での連携が難しい状況にある。デジタル教科書などの使用が増えつつあることは認識しているが、本校における活用は進んでいない。生徒の毎日の荷物については、特に1人1台端末を持ち帰るようになってから増えているのは明らかである。ロッカー設置に関する要望はこの間もずっとあったが、本校は教室・廊下が狭く、設置する場所がない。今回改めて、展開教室への設置についても検討したが、授業や部活動等で多く活用している実績があるため、難しい状況である。

（委員）（柴様）

先生と生徒との関係性はどうか。今は課題の量が多くて提出が大変だから、提出の時期をずらして欲しいというような意見を生徒側から言うことはできる関係ではないのか。

（学校）（校長）

確かに、そういう関係であればよいと思う。関係性が悪いとはまったく考えていないが、課題に関して生徒からそのような要望があがるようなことは少ないのではないかと考える。

（委員）（柴様）

部活動入部率が高い中で、勉強と部活動の両立が課題となる。部活動を熱心にしながらも、部活動の先生から学習を大事にするようにといった指導をするとよいのではないかと。

（学校）（教頭）

部活動顧問が部員に対して、「学習に対して気にしているよ」「成績も見ているよ」というメッセージを出しているという話を聞くことは多くある。

（学校）（首席）

実際に部活動顧問として、「岸高手帳」などを活用しながら、部員たちのスケジュール管理などにも関わっている。

（委員）（柴様）

そのようなメッセージを生徒たちに伝え続けてくれることが大事だと思う。

② 令和6年度および令和7年度学校経営計画について

- 令和6年度学校経営計画及び学校評価について。1ページの「めざす学校像」「中期的目標」についてはこれまで伝えており。2ページ左側の学校教育自己診断の結果については先ほど説明した内容を整理したもの。右側はこの学校運営協議会からの意見をまとめたもので、空白部分には本日いただいた意見を追記することになる。3ページ以降については、右列の自己評価欄に、学校教育自己診断などの結果を踏まえ、それぞれの項目で設定した指標に対して◎、○、△で評価したものである。なお、国公立大学進学者の割合や「岸高ハイレベル講習」「岸高スーパークラス」など、まだ結果の出していない項目もある。
- 今年度は、学校教育自己診断における多くの項目で数値が高くなったこともあり、◎や○がつく項目が多くなっている。

- ・令和7年度学校経営計画について。「育てたい生徒像」については昨年度策定したスクールポリシー（グラデーションポリシー）をもとに変更した。これまでは「爽やかで骨太」という言葉を使っていたが、抽象的であるという意見もあったことから、今回、削除した。
- ・中期的目標において、学習習慣の定着と時間管理能力の育成に対し、「岸高手帳」の活用を評価指標としていたが、活用することが目的ではないことから、より直接的な新たな指標として、学力生活実態調査の学習時間（平日1時間30分、休日3時間以上）を設定した。

【質疑応答】

(委員) (柴様)

時間外在校等時間が今年度10%削減し、月平均40.0時間になったとあるが、どのようなことに取り組んだ結果なのか。平日でも朝の就業前の時間と放課後の生徒下校時刻までの時間を考えると2時間程度の時間外となり、月20日と考えるとそれだけで40時間となる。そうしたことを考えても、これ以上、今後も減り続けることは難しいのではないか。

(学校) (校長)

全校一斉定時退庁日の設定などのほか、「働き方改革」に基づく教員の意識改革に努めてきた。この3年間でここまで下がったが、部活動や土曜日の講習、教材研究にも忙しい中、いずれ下げ止まるであろうと考えている。

(委員) (柴様)

時間外勤務時間としては、部活動の時間の割合が大きいか。

(学校) (校長)

教育庁が実施した教員に対するアンケートにおいても部活動が大きいという結果が出ている。本校においても、週休日における部活動と講習が大きな割合を占めていると考える。

(委員) (柴様)

私立高校であれば兼職・兼業の届を提出し、勤務時間外として部活動の指導を行っている事例もあるが、府立高校ではそういったことは難しい。

(委員) (柴様)

「働き方改革」という面で、デジタル採点の効果はあるか。

(学校) (教頭)

多くの教員が活用しており。効果は実感しているようだ。

(委員) (松下様)

中学校ではデジタル採点を試験的に活用しているが、採点時間が1/3に短縮できている部分もある。部活動について、指導したいと考える教員は全体の10%程度になっているのが現状。

③ 大学入学共通テスト結果と分析について

- ・1月18日、19日に行われた大学入学共通テストについては、新学習指導要領1年めの実施で、「情報I」が加わり、1,000点満点となった。今回、全国平均が上がり、共通テストリサーチの8科目受験者の得点分布では上位層での得点の増加が見られた。したがって、ボーダーラインはこれまで以上に高くなることが予想される。本校の3年生も素点は上がったが、平均の上昇を考えると、伸び悩んでいるという印象である。
- ・今後に向けては、生徒たちの希望を多く実現させるためにも、受験者の6割以上が700点をめざせるよう指導していかなければならない。特に、低学年における英数国の完成度を上げることが重要だと考えている。そのため、教員一人ひとりが授業のあり方を見直し、一丸となって目標を達成する意識を醸成していきたい。

(委員) (柴様)

新カリキュラム初年度の生徒であり、「情報Ⅰ」が導入されたが、岸和田高校の生徒はどれぐらい受けたのか。それに向けて、どのような対応を行ったのか。

(学校) (校長)

「情報Ⅰ」の扱いについては大学によって差があるが、ほぼすべての国公立大学において受験は必要であり、本校でも国公立大学をめざす生徒は情報を受けている。本校では、必修修となる教科「情報」の授業は1年次で行い、3年次では文科の生徒を対象とした選択による演習科目を設置している。今回は文章をよく読めば解ける問題が多く、平均も高くなったと感じているが、今後もその傾向が続くとは考えられないため、対応を考える必要がある。

④ 文理課題研究発表会及びスーパーサイエンスハイスクール第Ⅲ期中間評価について

- ・まずは文理課題研究発表会について。本校では9月に中間発表会、1月に最終発表会との位置づけで、年2回の文理課題研究発表会を開催している。今年度は1月25日(土)に最終発表会を開催した。
- ・資料にあるとおり、岸高ホールにおいて、各学系の代表発表として10本のオーラル発表(プレゼンテーション)を行った。また、府立天王寺高校と大阪教育大学附属天王寺校舎の生徒にも発表に参加してもらった。私はすべての代表発表を見たが、昨年度と比べて発表内容、発表方法ともにレベルは上がったと感じた。
- ・代表発表とは別に3階の各教室において、オーラル発表(プレゼンテーション)を行った。そして、残りのグループは体育館においてポスター発表を行った。また今回、3階の選択教室において、小学生5名と中学生2名にも発表してもらった。
- ・続いて、SSH第Ⅲ期中間評価の結果について。本校はSSHに指定され、今年度第Ⅲ期3年めとなる。SSHに対しては5年の指定期間の中で3年めに中間評価が行われる。今回、自己申告票の提出とヒアリングの実施により、上位30%に入る高い評価を受けることができた。引き続き、第Ⅳ期の指定をめざし、取組の充実と成果の拡大を図っていきたい。

【質疑応答】

(委員) (柴様)

小学校や中学校の児童・生徒をどのように募集したのか。

(学校) (校長)

岸和田市の小・中学校には市の教育委員会を通じて、校長会に案内してもらった。加えて、本校のWebページでも募集しており、今回、岸和田市のみならず、泉南市などからも応募してくれた。小学生の発表では小学生どうしが質疑応答するなど、とても盛り上がったと聞いている。次年度も拡大していきたいと考えている。

(委員) (柴様)

文部科学省からの評価は高く、素晴らしい成果であると言えるが、評価の内容を確認したところ、NOVAの評価に対しては改善が求められるとあった。それに対してどのように考えているか。

(学校) (校長)

生徒による自己評価を指標としている中、NOVAの生徒20名と全体320名とを比較して、NOVAの生徒の平均が全体の平均よりも高いことをもって、それを成果だと統計的には言えるのか、生徒の自己評価には客観性があると言えるのかなどの指摘を受けた。校長としてはそれらの数値に対する実感は伴っているが、評価の正当性を示すことは難しい。今後の評価の在り方については検討が必要である。

⑤全体を通して

(学校) (伊藤)

「ハイレベル講習」と「スーパークラス」については、GLHSの中でも実施しているのは本校だけである。これらの取組は本校の特徴の1つと言えるが、生徒・保護者からの意見は様々ある。

「ハイレベル講習」は実施する教室の関係もあって、定員を80名として選抜し、実施している。これらの取組について、委員の皆様はどのように考えておられか。

(委員) (小野様)

「スーパークラス」について、入れ替えるような制度はあるか。

(学校) (伊藤)

文系・理系ともに1クラスのみを設定であり、入れ替えることはできていない。

(委員) (小野様)

保護者の立場での意見となるが、1度入れなかった時に次のチャンスがないと、子どもに次どうしていいかといった声のかけ方が難しくなる。次のチャンスがあれば「次頑張ろう」と声をかけやすい。入れなかったことに奮起し、反骨心をもって取り組める子どもであればよいが、そうでなければ、自己肯定感の低下につながるのではないか。

(委員) (岸本様)

2・3名を追加で入れることはできないのか。希望者はどれぐらいいるのか。

(学校) (伊藤)

1クラス40名をベースにクラス分けを行っているため、若干名であっても追加は難しい状況である。今年度の1年生の希望者は理系スーパークラスが80名弱、文系スーパークラスが60名弱であった。

(委員) (岸本様)

理系スーパークラスのクラス数を増やすことはできないのか。

(委員) (松下様)

私立高校の中には入学後の成績の状況や進路希望の変化などにより流動的な対応をとれることが魅力となり成果を上げている学校もある。府立高校も柔軟に対応できる仕組みがあるとよい。本校の生徒にも岸和田高校のスーパークラスに入りたいと言っている生徒もいる。岸和田高校として、スーパークラスのような特徴を前面に出していくべきだと考える。

(委員) (柴様)

生徒や教員に学力の数値で分けるという意識を持たせるのではなく、「個別最適な学び」を提供するために設置しているのだということを伝えるとよいのではないか。「生徒の進路希望によってクラスを分け、そのために必要な到達度を問い、その希望を叶えるための授業を展開するクラスを設置する」といった示し方はどうか。実際に多くの私立高校では、医学部・医学科クラスなど、それぞれの進路希望に応じたクラスを設置している。

(委員) (山路様)

競争心を持つことは大切である。ただ、それによって苦しくなってしまう生徒が出てきてしまう可能性があるため、メンタルケアも必要になる。

3 校長より

本日は長時間にわたり、貴重な意見をいただいたこと、また、令和6年度学校経営計画に対する学校評価、および令和7年度学校経営計画について、ご承認いただいたことに感謝する。引き続き、来年度もよろしく願います。なお、山路委員には、後援会元会長として学校運営協議会委員を3期6年の間、務めていただいたことに感謝する。